

第二期武蔵野市市民活動促進基本計画策定に係る論点(たたき台)

これまでの策定委員会での意見、アンケート調査結果、昨年度までの市民活動推進委員会での意見、庁内ワーキングチーム(以下「WT」)の意見等を踏まえ、今回の計画策定における論点を以下の通り整理します。

※箇条書き記号： ◎ 委員会と WT の双方 ○ 委員会 ◆ WT ◇ アンケート

論点① オンラインツールの基盤整備と活用支援をいかに進めるか

〈概要〉活動を停滞させず、可能性を広げるオンラインツールの活用促進に取り組むことが急務。公共施設における Wi-Fi 等の基盤整備を進めつつ、オンラインの利用状況に団体間で格差がある状況を鑑み、さまざまな手段を通じて利用のサポートを充実させる必要がある。

〈これまでの議論で挙げたポイント〉

- 1 ◎情報格差の拡大防止が必要[H30、R3②]
- 2 ◎オンライン環境の整備・提供が必要[R1、R3②・③]
- 3 ○コミセンのデジタル化・Wi-Fi 整備とそれに向けた運営者の学びなど活動体制の整備が必要[R1、R3②・③]
- 4 ◆技術指導にかかる労力の確保が必要
- 5 ○オンラインツールのリスクについての学び、理解している人材の配置が必要[R2、R3②]
- 6 ○個人の市民活動の促進に向けた、オンラインでの活動支援が必要[R3②]
- 7 ◇団体による活動情報の発信方法は、「ホームページ」が 49.5%と最多、各種 SNS は1～2割

〈これまでの主な取組み〉

- ・プレイス 各種 Zoom 活用講座、マンツーマンの初心者向け Zoom 指導(大学生の協力あり)
- ・ボラセン Zoom ボランティア養成講座(大学生の協力あり)
- ・コミセン 各コミュニティ協議会どうしの Zoom の学習会、コミセン行事・会議等での活用
- ・コミセン 初心者向けスマホ講習会

議論を要するポイント……3と4

- 3について、コミセンの Wi-Fi 整備は既定路線である一方、それをうまく活用・運営していくための体制整備(運営者の学び等)としてどういうものがよいか、整理が必要。
- 4について、個別の技術指導・相談対応が期待される一方、その確保方法や、支援する場所・活用すべき人材などの体制について検討が必要。
- なお、1・2は概ね共通見解に達しており、5は取組みを事務局で検討、6は考え方として計画に反映させる。

論点② 対象者の技能・状況等に応じた市民活動への参加促進

〈概要〉「市民活動のきっかけづくり」を行う上では、オールターゲットの取り組みだけでなく、働きかける対象の技能・状況等に応じた「きっかけづくり」を仕掛けていくことが有効と考えられる。

〈これまでの議論等で挙げたポイント〉

- 1 ◎市民の技能を活用した協働関係の構築(広報物作成やオンラインツール活用指導などの事例あり)
[H29、R3④]
- 2 ○インターシップとしての大学生の参加があるとよい[R3②]
- 3 ◆小中学生の参加体験を進められるとよい
- 4 ◆新しい担い手と現在の活動者を結ぶ切り口の創出(例:学生によるオンラインツール利用法の指導)
- 5 ○人材が流動的に参加できるような活動展開が有効ではないか(立ち上げ時の局所的な関与、「プロジェクト方式」の活動など)。「入ったら抜けられない」雰囲気の打破、という意見も WT では挙げた)
[R3②・③]
- 6 ○「市民」ではないが地域を構成する人(通勤・通学者等)への参加促進の仕掛けがあるとよい[R3④]
- 7 ◇デザイン・IT 等の強化に向けたプロボノ申請や講座、マッチング等の支援を求める団体の声もある

〈これまでの主な取組み〉

- ・プレイス 各種イベント、講座事業
- ・ボラセン 中学生以上対象のボランティア体験事業、大学のボランティアサークルとの連携
- ・コミセン 人材バンクの試行

議論を要するポイント……5と6

- 5については、意見として散発的に挙げている感もあるため、改めて全体から意見・アイデアを伺いたい。
- 6は第4回委員会(8月)で挙げたばかりであり、改めて全体から意見・アイデアを伺いたい。(論点⑤4とセットで挙げた意見であることに留意が必要)
- なお、1・2・3は意見として挙げたことを踏まえ、今後事務局内で検討、4については既に挙げた事例を参考にしつつ、頂けるヒントがあれば伺いたい。

論点③ 参加の「一歩目」の支援

〈概要〉新規活動者の獲得が団体の課題となっている中、「きっかけづくり」(市民の背中を押す)に加え、ハードルを解消する方向での「一歩目」の支援も重要と考えられる。

〈これまでの議論等で挙げたポイント〉

- 1 ◎参加負担の軽減が必要(例:ライフスタイルやスキルに応じた柔軟な参加要件、オンライン参加、業務負担の改善、閉塞的雰囲気への解消など)[R3②]
- 2 ◎市民活動への参加の第一歩のハードルの解消が必要(参加体験の場の設定など)[R3②]
- 3 ○武蔵野プレイスの個人利用者や講演会参加者等の学びを活動につなげる支援が必要[H28、H29]
- 4 ●プレイスでは講演会参加後のマッチングに着手済み[H29]
- 5 ○コミセンやプレイスの「地域の居場所」化が進むとよい(利用の敷居を下げる、楽しい場所とする、まだ明確な目的意識のない来訪者と市民活動との出会い、など)[H30、R1、R3④]

議論を要するポイント……5

- 5について、実際に計画内外で本格的に着手していくためには、より具体的な意見や共通見解の形成が必要と考えられる。「地域の居場所」のイメージの具体化や、そのアイデア整理に向けて、改めて全体でご議論頂きたい。
- なお、1・2・3は概ね共通見解に達しており、4は現状の共有である。

論点④ 「連携と協働」をさらに効果的に推進するためにどう取り組むべきか

〈概要〉これまで連携・協働が推進されてきた中で、アンケート調査結果では、関連の取り組み(現計画 P30～31、基本施策4)についての団体の満足度は、他項目と比べて低い(ただし各項目とも6～8割が「どちらでもない」「不明・無回答」であることに留意が必要)。

行政や企業等も含め、どのように今後「連携と協働」を推進していくのか検討が必要。

〈これまでの議論等で挙げたポイント〉

- 1 ◎多様な主体による市民協働の仕組みをさらに整えていく必要(例:プレイスを介さず活動団体同士が自発的に協働していける仕組み、活動団体による相談対応、商店街との連携、団体の形をとらない市民活動主体との協働、学生との協働など)[H28、R1、R3②]
- 2 ◎民間事業者等との連携(活動場所や人材確保、資金援助等)も進めるべきであり、実績例の把握も必要[H28、H29]
- 3 ○「企業による市民活動」という観点も必要[H29]
- 4 ◎庁内連携が不十分である(課題意識の共有や、課題解決の方策の検討)[H28]
- 5 ○行政による「固くない」相談窓口が必要[H29]
- 6 ○行政と市民の協働をさらに進めるべき(職員研修、職員・市民がともに学ぶ場)[R1]
- 7 ◆団体と協働での担い手づくりが有効
- 8 ○行政の支援を受けた団体による、支援の効果報告(報告の場の設置や報告書作成、成功例紹介など)[H30]
- 9 ◇他団体との協働・連携の深化について、「考えている」が 28.4%、「今後考えてみたい」が 24.8%

〈これまでの主な取り組み〉

- ・自治基本条例の制定、協働の定義や市民参加手続(パブリックコメント・意見交換会など)の明文化

議論を要するポイント……2・3と6

- 2については、過年度の委員会で出たご意見であるが、民間事業者との連携の実績例や今後必要な考え方について、改めて全体でご共有頂きたい。併せて3の「企業による市民活動」という観点についても、ご意見があれば伺いたい。
- 6について、次期計画は必ずしも行政との連携を前提とせずに市民活動を捉える一方、行政として市民との「協働」を進めるべき点や方向性について、ご意見があれば伺いたい。
- なお、1は声として十分頂いており、プレイスやボラセン等でも各種の取り組みが進行中である。4・5・8は声として挙げたことを踏まえ、今後事務局内で検討、7はボラセンの事例共有として参考にする。

論点⑤ コーディネート機能の発揮・向上に向けた取組みをどうすべきか

〈概要〉これまでも重視されてきた「コーディネート機能」については、現行計画には詳しく記載されているが、今後取り組んでいくべき事業をより具体化させていく必要がある。

※論点②・③・④とも関係する

〈これまでの議論で挙げたポイント〉

- 1 ◆活動団体の状況の捕捉(プレイス登録団体へのヒアリング等)
- 2 ○「新たに活動したい」人への適切な情報提供・データベース構築(団体のマッピング、一覧化など)
[H29、R1]
- 3 ◇今後、市との協働・連携を深めたいかは「考えている」が 53.2%、「今後考えてみたい」が 20.2%
- 4 ○課題ごとに個人と活動とをマッチングさせる仕組みがあるとよい(「団体」に所属していない個人も対象として活動をコーディネートすることで、担い手不足の解消にもつながる)[R3④]
- 5 ○先進的な活動団体にコーディネート機能を付与することも有効ではないか[R3④]

〈これまでの主な取組み〉

・職員向けの協働・コーディネート力研修(H25,27,29,30)

議論を要するポイント……4と5

- 4について、こういった種類の課題について、こういった主体によるマッチングが行えれば実現可能か、アイデアの方向性を具体的にしていくため、ご意見を伺いたい。
- 5は第4回委員会(8月)で挙げたばかりであり、共通見解としてよいか、どうすれば可能かご議論頂きたい。
- なお、1・2はプレイスでも関連の取組みを検討中であり、頂いた声を参考とする。

論点⑥ プレイスの市民活動支援機能のさらなる充実

〈概要〉市民活動促進において重要な役割をもつプレイスの機能について、論点①～⑤なども踏まえつつ、充実・強化していくべき事項の具体化・洗い出しが必要。

〈これまでの議論で挙げたポイント〉

- 1 ○ プレイス3階(市民活動フロア)の雰囲気演出(職員紹介の掲示など)[R3②]
- 2 ○ 既存施設を活用した市東部における相談対応機能の創出と、そこからプレイスへの誘導[R3②]
- 3 ○ プレイスのリーチ範囲の延伸(例:文化事業団との統合を背景とした新たな分野の団体とのつながり、オンライン環境を整備して「その場に集まらない」活動の展開、など)[R3②]
- 4 ◆ プレイスの機能向上(施設の充実、広報強化、運営への「運営協議会」の意見反映、など)
- 5 ○ 団体の情報発信機能の向上(例:プレイス外への広報物の設置、原稿締切の設定の工夫、情報ステーションの機能の見直し、など)[R3④]
- 6 ○ 活動団体による相談対応など、団体が主体となる相互支援の促進[R3④]
- 7 ○ 自宅を拠点としているNPOなど活動団体がプレイスを拠点として活用できると便利である[R3④]
- 8 ◇ 情報投稿に関する機能については、団体から重要視されている一方、満足度が比較的低い

議論を要するポイント……3と6

- 3については、拠点として目指す機能の方向性など、大きな枠組みの議論を要すると考えられ、今回の策定の中でこういった内容をどこまで盛り込むべきか、共通見解の形成に向けてご議論頂きたい。
- 6は第4回委員会(8月)で挙げたばかりであり、共通見解としてよいかや、実施する際の方向性について、ご意見を頂きたい。
- 1・2・4・5・7については、プレイスで進行中の取組みもあり、頂いた声を踏まえながら事務局・プレイスで引き続き取組みを検討する。